

### 1 自己評価及び外部評価結果

**事業所概要 (事業所記入)**

事業所番号	1970200174		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	山梨ケアセンターそよ風		
所在地	山梨市上神内川 15 - 5		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**評価機関概要 (評価機関記入)**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新 1 - 2 - 12		
訪問調査日	平成23年1月14日		

**事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)**

個々の利用者のできる事や願いを尊重し、また、出来るようになる可能性のあることを大切に、その人の持っている眼には見えない無限の可能性を引き出していきたい。喜怒哀楽を利用者・家族と共有し、利用者・家族の思いを大切に受けとめ、家族と共に利用者のケアがしていけるように協力関係を築いていきたい。

交通量の多い道路に面しているという立地や、高齢化した住民の多い地域に事業所があるという条件のもと、なんとか地域とつながりのある事業所づくりのために努力を重ねている。また、利用者の状況や生活歴、思いや意向を知るために、センター方式を一部利用し、得た情報の中から、利用者に語りかけている。外部評価の結果をもとに、運営推進会議やスタッフ会議の中で検討し、事業所の改善や認知症ケアの向上に努めている。管理者を中心に利用者の思いに沿った支援が出来るよう、職員が取り組んでいる姿を見ることができた。

**サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 山梨ケアセンターそよ風

セル内の改行は、(Alt+ )+ (

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			はぎの丘	ツツジの郷	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で検討し作り上げた理念を元に、日々ケアの実践に活かしている。	皆で検討し作り上げた理念を元に、日々ケアの実践に活かしている。	フロア会議やケア会議で、日々行なっているケアが理念に沿ったものとなっているか振り返っている。利用者一人ひとりの思いを大事にしている。グループホームは地域密着型サービスであるという意識を常に持ち、地域との接点を探し続けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当3区の総会に出席しグループホームを理解してもらっている。また、当区の特徴を踏まえ、幼稚園・小学校・高等学校・お菓子屋さん・薬局・病院等と繋がりを持ち、日常的に交流している。	当3区の総会に出席しグループホームを理解してもらっている。また、当区の特徴を踏まえ、幼稚園・小学校・高等学校・お菓子屋さん・薬局・病院等と繋がりを持ち、日常的に交流している。	高齢者が多い地域性もあり、地域住民とのつながりを持つのが困難であったため、事業所周辺にある学校(小学校・高校・幼稚園等)と連携し、ボランティアや実習生の受け入れを行なっている。管理者自らもキャラバンメイトとして、地域の認知症サポーターを養成するなど、積極的に地域に関わろうとしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設を周囲の人達の役に立ててもらおうと地域の人々の集まる区の総会などに出席し、当事業所の理解に努めてもらうと共に、近所の学校にも認知症理解の普及が出来るよう働きかけている。	当施設を周囲の人達の役に立ててもらおうと地域の人々の集まる区の総会などに出席し、当事業所の理解に努めてもらうと共に、近所の学校にも認知症理解の普及が出来るよう働きかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、事業所の状況を伝え理解してもらおうと共に、出席している家族や出席した人達の意見をグループホームの運営に取り入れ、サービス向上に努めている。	運営推進会議において、事業所の状況を伝え理解してもらおうと共に、出席している家族や出席した人達の意見をグループホームの運営に取り入れ、サービス向上に努めている。	2か月に1回、利用者家族も順番で参加し、開催している。利用者の状況やスタッフの変更などを報告している。地域住民である区長や民生委員が委員となっていることもあり、地域とつながりを持つための相談などを行なっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携を密に、常に相談できる協力関係を築いてグループホームの運営に当たっている。	市町村との連携を密に、常に相談できる協力関係を築いてグループホームの運営に当たっている。	退居した利用者への対応を通して、地域包括との連携をとっている事例もある。地域包括(市)との連携が良く取られており、地域包括からの依頼で、消防署職員を対象に認知症サポーター養成研修を開催している。	
6	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議や日々のケアにおいて、身体拘束の弊害などについて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	フロア会議や日々のケアにおいて、身体拘束の弊害などについて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	フロアや事務所に身体拘束の理念が貼られ、職員に意識付けをしている。ベッド柵の使用も、家族への説明同意の上、ベッドからの落下防止のため、最低限なものとしている。交通量の多い道路に事業所が面しているため、運営推進会議の中で、話し合われた結果、安全上玄関への施錠は常時なされている。スピーチロックや抑圧的な言葉は、気づいたときに職員同士で注意しあうようにしているが、時々介護の上で見受けられる。	事業所周辺の交通状況もあり、すぐ玄関の施錠をはずすことは難しいが、各フロアに入るドアを開放することは期待したい。また、接している職員本人が気づかずに、指示や抑圧的な言葉を、利用者に使ってしまうことがあるので、今後も管理者・職員で相互に注意し合えるような関係作りを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が高齢者権利擁護の研修会に出席し、フロアにおいても虐待について話し合う機会を設け、虐待防止に努めている。	管理者が高齢者権利擁護の研修会に出席し、フロアにおいても虐待について話し合う機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			はぎの丘	ツツジの郷	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護の研修会に出席し、日常生活自立支援に関することや、成年後見人制度について学び、必要時、活用できるようにしている。	管理者が権利擁護の研修会に出席し、日常生活自立支援に関することや、成年後見人制度について学び、必要時、活用できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約などの際には利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、説明を行ない、理解してもらうように関わっている。	契約の締結・解約などの際には利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、説明を行ない、理解してもらうように関わっている。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アセスメント用紙に利用者・家族の意見や思いを記載する欄を設け活用している。また、家族にアンケート調査を行い家族及び利用者の思いを引き出している。また、平成22年5月に家族会を設立し、家族の思いや意見をグループホームの運営に反映している。	アセスメント用紙に利用者・家族の意見や思いを記載する欄を設け活用している。また、家族にアンケート調査を行い家族及び利用者の思いを引き出している。また、平成22年5月に家族会を設立し、家族の思いや意見をグループホームの運営に反映している。	家族会を立ち上げ、それを契機に運営推進会議に家族が順番に参加し、意見を聞くようにしている。家族アンケートを実施する他にも、面会の時などに意見や要望を聞くようにしているが、中々、何でも言い合える関係には至っていない。	家族会の立ち上げを契機に、家族との距離感を縮め、気軽に意見や要望を利用者家族が言えるような関係づくりを期待したい。
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やケア会議・学習会・ミーティングなどで聞いたり、必要時、面接などを行い、職員の意見や提案を聴き、反映している。	フロア会議やケア会議・学習会・ミーティングなどで聞いたり、必要時、面接などを行い、職員の意見や提案を聴き、反映している。		センター長や管理者が面接を行うこともあるが、フロア会議など、必要ときに職員の意見を聞く場を設けている。入居者の受け入れや異動についても、職員と相談して決めている。管理者は勤務終了後、職員の様子を見て、対話する時間を作るようにしている。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフ一人ひとりがやりがいを持って働けるよう、管理者やスタッフと話し合いを行い職場環境・条件の整備に努めている。	代表者はスタッフ一人ひとりがやりがいを持って働けるよう、管理者やスタッフと話し合いを行い職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は事業所内の年間研修計画を立案すると共に、事業所外への研修に積極的な参加を促し、働きながらトレーニングしていくことを勧めている。	代表者は事業所内の年間研修計画を立案すると共に、事業所外への研修に積極的な参加を促し、働きながらトレーニングしていくことを勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流することを勧め、ネットワーク作りや勉強会・相互訪問等の活動を通してサービスが向上できる様になっている。	代表者は管理者や職員が同業者と交流することを勧め、ネットワーク作りや勉強会・相互訪問等の活動を通してサービスが向上できる様になっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、少しでも安心してもらえるように、本人の思いが表出できるように気配り目配りをし、困っていることなど引き出す努力をして、本人との関係が早期に築くための試みをしている。	サービスを導入する段階で、少しでも安心してもらえるように、本人の思いが表出できるように気配り目配りをし、困っていることなど引き出す努力をして、本人との関係が早期に築くための試みをしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、少しでも安心してもらえるように、本人の思いが表出できるように気配り目配りをし、困っていることなど引き出す努力をして、本人との関係が早期に築くための試みをしている。	サービスを導入する段階で、少しでも安心してもらえるように、本人の思いが表出できるように気配り目配りをし、困っていることなど引き出す努力をして、本人との関係が早期に築くための試みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			はぎの丘	ツツジの郷	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族が必要な支援を利用者の尊厳や自立支援の立場から「その時」に必要な支援を見極めて実施しているが、まだ他のサービスを利用するには到っていない。	サービスを導入する段階で、本人と家族が必要な支援を利用者の尊厳や自立支援の立場から「その時」に必要な支援を見極めて実施しているが、まだ他のサービスを利用するには到っていない。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ポジティブパーソナワークの日々の実践により、利用者と共に喜怒哀楽を共有し、職員は本人を介護される側には置かないで、暮らしを共にするもの同士の関係を築くようにしている。	ポジティブパーソナワークの日々の実践により、利用者と共に喜怒哀楽を共有し、職員は本人を介護される側には置かないで、暮らしを共にするもの同士の関係を築くようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のことで、僅かなことでも家族に連絡をとり、話し合う機会を積極的に作り、家族の思いを受け止め、家族の今までの辛さを理解し、本人と家族のつながりを感じつつ、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者のことで、僅かなことでも家族に連絡をとり、話し合う機会を積極的に作り、家族の思いを受け止め、家族の今までの辛さを理解し、本人と家族のつながりを感じつつ、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	㊸	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	センター方式の一部を活用している。また、知人・友人・行きつけの場所やお墓の草取りなど、関係を断ち切らないようにすると共に、知人・友人などがグループホームに来てもらえるように支援を続けている。	センター方式の一部を活用している。また、知人・友人・行きつけの場所やお墓の草取りなど、関係を断ち切らないようにすると共に、知人・友人などがグループホームに来てもらえるように支援を続けている。	センター方式の一部を活用して、利用者の生活歴や出来ること出来ないことを把握している。友人・知人が事業所を訪れたり、お墓などの利用者の馴染みの場所に、職員と出かけたりしている。家族や友人への連絡には、事務所にある電話を自由に使うことができるようになっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、座席を配慮し、また、同じ地域の利用者同士が語り合うことが出来るような環境作りを行い、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援をしている。	利用者同士の関係を把握し、座席を配慮し、また、同じ地域の利用者同士が語り合うことが出来るような環境作りを行い、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の利用者のケアについて、課題が残った利用者もおり、当事業所で生活していた頃からの家族との関係から、相談にのったり訪問したり、今でも支援を継続している。	退居後の利用者のケアについて、課題が残った利用者もおり、当事業所で生活していた頃からの家族との関係から、相談にのったり訪問したり、今でも支援を継続している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	㊹	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	画一的なケアをするのではなく常に一人ひとりの利用者は何をしたいのか、利用者の立場に立って検討している。	画一的なケアをするのではなく常に一人ひとりの利用者は何をしたいのか、利用者の立場に立って検討している。	アセスメントで得た情報から、利用者に語りかけ、思いや意向を把握している。電話連絡の時や担当者会議の際にも、家族から情報を得ている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との馴染みの関係を築きながら、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方の情報収集し、利用者が有する力を発揮しつつ、心地よくグループホームでの生活が出来るよう支援している。	家族との馴染みの関係を築きながら、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方の情報収集し、利用者が有する力を発揮しつつ、心地よくグループホームでの生活が出来るよう支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの利用者に関わる中で、チームとして利用者の出来る事を見出し、利用者と共に喜び、暮らしたいけるよう日々努力している。	一人ひとりの利用者に関わる中で、チームとして利用者の出来る事を見出し、利用者と共に喜び、暮らしたいけるよう日々努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			はぎの丘	ツツジの郷	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を最低月1回は開催し、また、必要時、ケア会議を行なうなど、チームとして家族の意見も踏まえ、一人ひとりのケアを検討し、現状に即したケアがチームとして行えるよう介護計画の見直しを行っている。	ケア会議を最低月1回は開催し、また、必要時、ケア会議を行なうなど、チームとして家族の意見も踏まえ、一人ひとりのケアを検討し、現状に即したケアがチームとして行えるよう介護計画の見直しを行っている。	フロア会議などで、職員の意見を聞き、ケア会議でプランに反映している。常日頃から、家族からも意見を聴いたり、サービス担当者会議に家族が出られない場合でも、家族の意向を管理者が代弁し、プランに反映している。モニタリングで得た情報を踏まえて、3か月に1回の見直しを待たず、プランを修正することもある。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成し、日々の気付きや工夫を記録に残し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録を作成し、日々の気付きや工夫を記録に残し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者様が求めているものは何か、ニーズを見極め、柔軟なサービスができるように取り組んでいる。	その時々利用者様が求めているものは何か、ニーズを見極め、柔軟なサービスができるように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター・民生委員・事業所隣にある耳鼻科、近所の歯医者・お菓子屋さん・薬局・幼稚園・保育園・小学校・高等学校などの人達の力を借りて、より豊かな生活が営めるよう取り組みをしている。	地域包括支援センター・民生委員・事業所隣にある耳鼻科、近所の歯医者・お菓子屋さん・薬局・幼稚園・保育園・小学校・高等学校などの人達の力を借りて、より豊かな生活が営めるよう取り組みをしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導のシステムの活用により、24時間、常に医師との連携が取れている中で、適切な医療が受けられるよう支援している。	居宅療養管理指導のシステムの活用により、24時間、常に医師との連携が取れている中で、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は利用者が選択できるようになっている。多くの利用者は月1回の往診を受けている。往診以外の利用者の受診は家族対応となるが、利用者の状況を文書にまとめ、家族に手渡している。歯科・耳鼻科とも連携がよく取れていて、スムーズな受診につながっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であることから、介護職との連携を密にし情報を共有することにより、利用者が適切な受診や看護が受けられるようにしている。	管理者が看護師であることから、介護職との連携を密にし情報を共有することにより、利用者が適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は看護サマリーにより情報の提供を行い、利用者に適したケアが受けられるようしている。また、リロケーションダメージを最低限にするために短期間での退院ができるように病院関係者と話し合いを行ったり、日々、面会に行ったり、必要に応じて病院から事業所に外泊をしている。	入院する際は看護サマリーにより情報の提供を行い、利用者に適したケアが受けられるようしている。また、リロケーションダメージを最低限にするために短期間での退院ができるように病院関係者と話し合いを行ったり、日々、面会に行ったり、必要に応じて病院から事業所に外泊をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で医師・家族・本人・介護職・看護師と話し合いを行い情報の共有をし、事業所のできることを皆で検討し、相互理解をしてケアに取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で医師・家族・本人・介護職・看護師と話し合いを行い情報の共有をし、事業所のできることを皆で検討し、相互理解をしてケアに取り組んでいる。	入居時に事業所として看取りが出来る方針を伝えている。利用者の状態を見ながら、終末期を迎えそうな利用者家族に、段階的に話し合いを行っている。昨年、医師と看護師である管理者、介護職が連携して、2人の利用者の看取りを行った。	

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			はぎの丘	ツツジの郷	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム職員全員が普通救命講習を受講した。今後も定期的に訓練を行っていく予定としている。また、その時に採用されていなかったスタッフには看護師が急変時の対処ができるように伝達している。	グループホーム職員全員が普通救命講習を受講した。今後も定期的に訓練を行っていく予定としている。また、その時に採用されていなかったスタッフには看護師が急変時の対処ができるように伝達している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震などに備えて昼夜の避難訓練を実施し、いざという時に避難できるよう訓練している。地域の消防団との協力体制は現在築いている。	火災や地震などに備えて昼夜の避難訓練を実施し、いざという時に避難できるよう訓練している。地域の消防団との協力体制は現在築いている。	同じ敷地内にある3事業所(デイサービスセンター・ショートステイ・グループホーム)で合同で避難訓練を実施している。地域との協力体制は、事業所に隣接したカラオケ店への協力依頼を検討している。また、地元消防団への協力依頼を現在行っている。	災害などの非常時には、地域住民の協力が欠かせないものであるため、事業所の近くにある民家への協力依頼の検討を期待したい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に心がけている。	声かけでの言葉使いについては、気づいたときに、管理者や職員同士で注意しあうようにしている。排泄時に見守りが必要な場合には、トイレのドアは開めるが、中の様子が聞こえる場所で、注意を払っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現が難しい利用者の思いや意図を引き出すように、日々声かけや自己決定できるように働きかけている。	表現が難しい利用者の思いや意図を引き出すように、日々声かけや自己決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの日課に利用者を合わせるのではなく、その日に何をしたいのか、今なにをしたいのかを優先的に考え働きかけている。	グループホームの日課に利用者を合わせるのではなく、その日に何をしたいのか、今なにをしたいのかを優先的に考え働きかけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみやお洒落が出来るように支援している。	その人らしい、身だしなみやお洒落が出来るように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしいものを食べるのは皆が好むものである為、一人ひとりの力を活かして、その力に合わせた食事の準備や片付け等支援をしている。	おいしいものを食べるのは皆が好むものである為、一人ひとりの力を活かして、その力に合わせた食事の準備や片付け等支援をしている。	利用者が高齢化・重度化してきている事もあり、準備や片付けにかかわる事が難しくなっているが、出来る方には、盛り付けや机を拭くなどの役割をお願いしている。昼・夕食は併設の事業所と同じメニューになるが、朝食は、利用者の好みにあったメニューを出している。新型インフルエンザ流行後、外食に行く機会は減ったが、寿司などの出前を取ったりしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や好みを考慮し、食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて摂取できるように支援している。	一人ひとりの状態や好みを考慮し、食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて摂取できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			はぎの丘	ツツジの郷	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないう 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生の重要性を一人ひとりのスタッフが認識し、毎食後、口腔の状態に応じ、利用者の有する力に応じたケアを行っている。	口腔衛生の重要性を一人ひとりのスタッフが認識し、毎食後、口腔の状態に応じ、利用者の有する力に応じたケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフ全員がトイレで排泄することの重要性を認識し、一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、排泄介助をおこない自立に向けたケアを行っている。	スタッフ全員がトイレで排泄することの重要性を認識し、一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、排泄介助をおこない自立に向けたケアを行っている。	日中、リハビリパンツにパットをあて過ごす利用者もいる。排泄チェック表でパターンを把握し、定期的にトイレへ誘導している。夜間も意志があらわせる利用者は、誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を把握し、個々にあった便秘の解消策を行っている。	個々の便秘の原因を把握し、個々にあった便秘の解消策を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時に入浴できるような個々にあった支援をしている。	入浴したい時に入浴できるような個々にあった支援をしている。	入浴時間は利用者の希望する時間になっている。いつでも、入浴可能だが、夜間を希望する方はいない。入浴を拒否する利用者もいるが、週3回は入浴できるように、促している。どうしても難しい場合には、ドライシャンプーや足浴などを行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて、休息したり、安心して気持ちよく眠ることが出来るようにアロマ(ばらの花の香り)などを用いたり、眠りたいタイミングなど生活サイクルなどを見極め支援している。	一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて、休息したり、安心して気持ちよく眠ることが出来るようにアロマ(ばらの花の香り)などを用いたり、眠りたいタイミングなど生活サイクルなどを見極め支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を内服する重要性を一人ひとりのスタッフが認識し、確実に内服できるような支援を行い、作用・副作用出現時には看護師と連絡がスムーズに取れるように支援している。	薬を内服する重要性を一人ひとりのスタッフが認識し、確実に内服できるような支援を行い、作用・副作用出現時には看護師と連絡がスムーズに取れるように支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴から好みや喜びを感じられることを通して、張り合いや気分転換が出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの生活歴から好みや喜びを感じられることを通して、張り合いや気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には戸外へ散歩をしたり、近所のお店に買い物に出かけたり、本人の希望によりお墓の草取りに行ったり、家族の協力を得て日常的な外出支援ができるようにしている。	天気の良い日には戸外へ散歩をしたり、近所のお店に買い物に出かけたり、本人の希望によりお墓の草取りに行ったり、家族の協力を得て日常的な外出支援ができるようにしている。	天候を見ながら、一人ずつ散歩に出かけている。近所のドラッグストアやお菓子屋さんなどにも、職員と一緒にいる。ほかにも家族と協力してイチゴ狩りや花見などのイベントも行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの希望や能力に応じ、お金を使えるように支援している。	利用者一人ひとりの希望や能力に応じ、お金を使えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			はぎの丘	ツツジの郷	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のその時の気持ちを大切に、本人が電話をしたい時には、本人が電話出来るように支援している。	本人のその時の気持ちを大切に、本人が電話をしたい時には、本人が電話出来るように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって過ごしやすいものとなるように、季節感を取り入れた製作をして居心地良くなるよう工夫をしている。玄関には季節の花や野菜を植えたり、居間には季節の花を飾ったり、トイレは常に清潔感が保たれるようにする等心がけている。	共用の空間が利用者にとって過ごしやすいものとなるように、季節感を取り入れた製作をして居心地良くなるよう工夫をしている。玄関には季節の花や野菜を植えたり、居間には季節の花を飾ったり、トイレは常に清潔感が保たれるようにする等心がけている。	リビングには高級感のある椅子が置かれ、片隅にはソファも配置してある。職員と利用者が協力して作った作品なども展示され、季節感を感じさせている。玄関のプランターに野菜などを植え、利用者と一緒に収穫をして楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置いたりして、気分転換が出来るような居場所の工夫をしている。	共用空間にソファを置いたりして、気分転換が出来るような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く暮らせる工夫として、馴染みの物をおいたり、使い慣れた物を家族と相談して置くなど、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	居心地良く暮らせる工夫として、馴染みの物をおいたり、使い慣れた物を家族と相談して置くなど、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	ベッドと収納は備え付けの物となっているが、その他の物は持ち込みは自由になっている。家族や孫の写真が飾られたり、加湿器を持ち込んでいる居室もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が出来るように、必要な所に手すりをつける、カレンダーを置く、時計を設置する、床の安全を配慮する、各自の居室を分かりやすくするなどの工夫をしている。	一人ひとりの出来る事を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が出来るように、必要な所に手すりをつける、カレンダーを置く、時計を設置する、床の安全を配慮する、各自の居室を分かりやすくするなどの工夫をしている。		